歴教協第 44 回中間研究集会「第一次産業は今」（ハイブリッド） ご報告

―68 人（オンライン 30 人、会場 38 人）の参加者のみなさん、ありがとうございましたー

歴史教育者協議会

2026 年 1 月 11 日に、第 44 回歴教協中間研究集会がラパスホールでおこなわれました。68 人（オンライン 30 人、会場 38 人）の参加者のみなさん、ありがとうございました。最初に山田朗委員長よりトランプ政権のベネズエラ侵攻に触れて、2026 年は世界秩序の大きな変動期になることを指摘する挨拶がありました。

午前の記念講演は、鈴木宣弘さん（東京大学特任教授）の「日本の農業の現状と課題」です。GHQ とりわけアメリカの占領政策がコメを中心とした日本の食生活を変化させてきて、今もアメリカからの圧力が日本農業の課題を引き起こしていることを詳細な資料、データを元に解説してくれました。具体的には、アメリカの農産物ばかりでなく農産物の種子、除草剤までがさらには問題のある牛肉までが日本の市場に押し付けられている指摘は参加者に食の安全について考えるきっかけとなりました。とりわけ水田農法から乾田農法へ移行には用心したい、水田では雑草は生えないが乾田では雑草が伸びるので除草剤が必要となるという警告は刺激的でした。食料自給率がカロリーベースで 38％だが種子が外国産であることを考慮すれば、もっと低い可能性があることにも触れ、軍拡による安全保障よりも食の安全保障こそが求められるという提起は現実的でした。

午後は金谷雅史さん（千葉市酪農家）から「酪農家のいま」が報告されました。30 歳で酪農業を引き継ぎ、現在就農 12 年目。満蒙開拓団に所属していた祖父が 2 年間のシベリア抑留後、1947 年に開拓民として千葉県に入植して 1952 年に乳牛の飼養を始め酪農業を開始し、3 代目の今も搾乳を続けています。自給飼料の畑も引き継ぎ 8.5ha の畑で飼料生産を行い、現在 35 頭の乳牛の面倒を見ています。春に牧草を 1 年間分収穫し、同時に飼料用トウモロコシを植えて秋に収穫して、牧草を再び植えるというサイクルを続けています。乳牛の糞尿は堆肥化されこの飼料畑に還元して酪農における循環型農業を祖父の代から実施しています。戦時下そして戦後の苦難の中から近郊酪農家としてしかも安全安心できる牛乳を提供している循環型酪農家の報告に私たちは多くのことを学び、「国産の牛乳を飲もう」と心新たにしました。

中島晃延さん（小学校教員、福岡県歴教協）からは「地域の人と考える　これからの日本の食料生産」の報告でした。地元の花火師との出会いをきっかけに、地域で頑張っている人を応援したい授業づくりを始めていくことになります。今回は、日本の食料生産を子どもたちと学ぶために、友人でもある地元農業生産者との交流をすることにしました。子どもたちが答えを出すことよりも探究する過程を大事にした実践は、日本の食料生産の問題は決して農家だけの問題ではなく自分たちの食生活にかかわる問題だと気付かせました。地域の課題は日本の課題でもあることを参加者一同確認することができました。

第一次産業の現状と課題そして未来を切り開く農業についてみなさんと共に学びを深めることができました。今度は滋賀大会でみなさんとお会いできるのを楽しみにしています。

参加者の声

《鈴木講演について》

■先日の中間研究集会、ありがとうございました。

どの方のお話もとても面白かったです。さっそく、今日の給食時に牛乳が余っていたので「酪農を支えるには、特に冬にたくさん牛乳をのむことらしいよ」と声を掛けることができました。学びの成果

です。その後でもちろん理由も説明しました（東京・会員）。
■日本の農業が、戦後、アメリカの政策によって深刻な状況になっていることがとてもよくわかった。すべての国民が知らなければならないことだと思った。また鈴木さんはその解決方法も示されていてとても参考になった。（東京・会員）
■鈴木先生のお話を直接聞けて良かったです。大学では原因不明の発熱で体調不良、欠席する学生が以前に比べ多いです。サボリかと思いましたが、登校時の様子を見ると実際に不調です。「病院に行ってもわからない」そうで、今日のお話を聞き、彼らが子どものころから食べてきた、食べ物のせいかと思いました。（東京・会員）

《金谷報告について》

■授業実践につなげられそうなヒントをいただきました（千葉・会員）
■働く人のリアルが伝わってよかったです。（神奈川・会員）

《中島報告について》

■地域の人の困ったことを教材にしている点に学べました（千葉・会員）

会場参加者の皆さん

鈴木宣弘さん（東京大学特任教授）「日本の農業の現状と課題」

金谷雅史さん（千葉市酪農家）から「酪農家のいま」

中島晃延さん（小学校教員）「地域の人と考える　これからの日本の食料生産」